

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス事業所ひまわり		
○保護者評価実施期間	R8年2月1日		R8年2月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	46 (回答者数)	36
○従業者評価実施期間	R8年2月20日		R8年3月3日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18 (回答者数)	18
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども達が楽しめるプログラムの設定。	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント(行事)は当日を楽しむだけでなく、イベントに向けた活動を取り入れることで、見通しを持ちながら過ごせるようにしている。 ・リクエストタイム等、子どもたちの思いや意見を聞く場を設け、取り入れられるものは、活動に取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の声や気持ちをさらに増やし、たくさんの思いをキャッチしていく。 ・思いがあってもうまく表現出来なかったり、どのようにして伝えればよいか分からない子ども達もいるので、意志の表出の仕方についても子ども達に教えていく。
2	グループごとのねらいやプログラムの設定。	<ul style="list-style-type: none"> ・いるかグループは、多様な活動や遊びに触れ、さまざまな経験や刺激が得られるようにプログラムを設定している。また、繰り返し遊びこむことで、遊びを深めたり、「できた」を実感することができるようなプログラムを設定している。 ・くじらグループは、「主体性」を柱に、自分たちで決めたり、選んだり、考えたり、話し合ったりしながら、充実した時間が過ごしていけるようなプログラムを設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達がこの時期にどんなことを経験していくと、今後の生活がより充実していくかを常に考えながら、プログラムを立案していく。 ・子ども達1人1人の発達段階を考慮しながら、それぞれがプログラムを楽しめるような配慮や工夫を行っていく。
3	ストレングスの視点を持ちながら子ども達と向き合っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの「強み」や「できること」「得意なこと」に視点を当てた支援を大切にしている。 ・それぞれの持ち味をいかしながら役割を提供し、「自分が役に立っている」という思いを実感できるように導いたり、「できた」を感じられるような場面を設定し、子ども達の自己肯定感が育まれていくような支援を心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の「強み」をたくさん見つけていけるよう、さまざまな視点でアセスメントを行うようにする。 ・子ども達とたくさん関わりを持ちながら過ごすことで、「強み」を見つかったり、引き出していけるよう支援する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・家族支援プログラム(ペアレントトレーニング)を計画立てて行うことやそのノウハウが確立されていない現状がある。 ・保護者からさまざまな思いや悩みを聞き取ってはいるが、踏み込んだ支援が行えていないことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修や勉強会の情報提供や、参考になる書籍や資料等の紹介など、家族支援に関する情報発信から取り組んでいく。 ・巡回療育や児童発達支援センターの中核機能強化事業のスタッフと連携をとっていく。
2	地域との交流や地域に開かれた事業運営	<ul style="list-style-type: none"> ・公園へ出かけたり、公共施設の利用は積極的に行っている。その際に地域の人たちとの交流に発展することもあるが、次のステップにつながるような取り組みや活動は出来ていない。 ・くじらグループは、自宅に近いエリアの児童館を利用する経験をする等、地域を意識した活動を取り入れることが出来たが、いるかグループの方は、あまり取り入れることができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわりの方から地域に出向いていくような活動を両グループ共に考えていく。 ・地域資源やイベント、その他地域に関する情報にアンテナを張り、活かせるものがある際には積極的に取り入れていく。 ・児童館や児童クラブとのつながりを作っていく。
3	発達支援についての専門的知識やスキルの不足	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的知識やスキルについて、職員によってばらつきを感じる。 ・子ども達へより良い支援をしたいという思いや、子ども達の思いに寄り添っていききたい、という気持ちを持ちながら支援にあたっているが、それを実現するために自身のスキルアップを目指そうとする意識は不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会や事例検討会等を重ねながら、支援の質の向上、均一化を目指す。 ・子ども達のより良い支援のために、自身の支援のあり方について振り返ることや、自己研鑽おこなうなど、職員1人1人の意識の改革も必要。